

# 第11回全国家読 ゆうびんコンクール

# 柳田邦男賞



### お父さん、お母さんへ

愛されることより、愛する生き方をしたいる

この本は、27才で急死した明子とんか死の前夜に残した「あいたい」 というなぞの伝言を、主人公が解と明かしていくお話です。なぞを解くため 色なな人から明ままんについて話を聞いていくと、明子さんかとても周りの人か ら愛されていたことか、分からてきます。明子さんは障害をかかえながらも何 でも前向きに取りてみ、人のために行動できる優い人でした。知は明子 かの「愛されるより愛な生ま方をしたい」という言葉が強くルいに残りましてき。 この言葉がら、明子さんがみんなからとても愛されていたのは、明子さんかい つも人に愛を持,て接していたからだと気がきました。この本を読んで 私も明子さんのように、まかは自分から人を愛せる人になりたいと思い ました。おりくさんが母さん、いつもれを愛してくれて、ありかとう。名山がわか ままを言って怒らせてしまうことも多いけど、いうとき量かく見守ってくれて、 ありがとう。来年からは中学生なので、今より忙しくなって一条着 にいる時間がりてなると思います。困らせてしまうこともたっくさんある かもしれません。でも、知はお父さんが母さんが大好きです。これ からはもっと家族を大けのにして愛していまたいて思います。 これかもよろしくわら ひなより



### おかあさんのいのりの武虎悦子 珠·稜·澄へ

私をよりまんににてくれた、かわいいろ人の子供達へ、 このお話は全てのマスの大事なよ願いが書いてあるよ。初めて産まなに姿を見た時。 小さい于足に驚き、必ず大きくなるその日まで、大切に育くようと思え持ち。外遊でが出来

るようにないた時のもっとたくえんの物を見せてあげたりと思う暖か、気持る。世界はみ んなの愛でつなからていると教えてあげたいの、ヤがて、母よりも入まくなるあなたのその手が

銃などを握りませんように…人の命は守られてよくてはていててよいのその当たりが すれなくしてしまう、単文争、子供から奪わないで、全ての子供が与えられた時 間を精一杯生まれる。それが平和という宝物。ママ、エニの本を読んと、月になる 祈らずにはいられませんのとづか、みんなか、たり布にりまえる事のない、平和 世界を生まれまりようにもこれはね、全ての人が赤ろせんを授かった時に必ず 神様にお願いすることナエ人たは、ヨ人にも、いつかそう思う瞬間かり 言族ると信じているよ。その時、ママロチ絵本の最後の一文のように、

ああ、お下しはそのとまと以びにしあわせなおはあまんになっているとではう、、ア



#### ひかりへ 「おじいちゃんか、おばけになったわけ」

この本を読み始めると、すぐになかりといいじのことが頭に浮かんだの。ひかりは、学校から帰ってくると、じいじと過ごす ことが外かたね、お稼がきする時も、宿殿をする時も、みゃっを食べる時も、そばにはいっもじいじがいたね。 新気をしてベッドにいる時間が長くなっても、それは変わらなかたわるお縁がきは、みんなのことも書いてくれていたりれど、

印象だけで、ひかりといるお手は、しいもニコニコをあの優しったなだがれ じいじとのお別れの疎は、子供は赤室に入れてよくて食文なかたけ れど、お母さんがじいいと野場に言まれてのも「学校から帰ってる

じいじも、おばけになって、たれたことを 伝えに、ひかりに会はに来たかな?

お母さんより

